

アジアゾウのマスト時における管理方法と今後の課題

橋口泰志、○松元悠一郎、寺原三千男、落合晋作
(鹿児島市平川動物公園)

ゾウにおいてマストは避けられない生理現象である。

当園においてもアジアゾウのラウナ♂(推定 37 歳)は毎年冬季を過ぎた 4 月頃からマストになり、それに伴い側頭腺からの腺液分泌、頻尿、攻撃性の増大などが顕著に見られるようになる。

マストの時期になると、頻尿により夜間収容する寝室床面が翌朝には濡れている。常時、尿に曝露されることによる四肢底面への悪影響を考慮して、寝室と放飼場の間のサブパドックを開放して夜間は寝室とサブパドックを自由に行き来できるようにした。その結果、夜間利用できるスペースは、寝室 52.5 m²とサブパドック 144.0 m²の計 196.5 m²になり、四肢底面の濡れと衛生環境は以前より改善された。

また、ターゲットトレーニングによる四肢のケアを毎朝一回行った。特に頻尿による汚れが顕著な後肢については蹄刀により底面と爪の削蹄を行った。トレーニング終了後にはホースを使って水を浴びせ、尿により常時濡れている状態にある陰部から後肢内側にかけては重点的に水洗浄を行った。

現在、後肢底面に関してはケアができる状況であるが、後肢の爪に関してはケアが進んでいないので、今後ターゲットトレーニングをより強化し、後肢の爪に関しても十分なケアをできるようにしたい。

また、前肢については鼻を出し妨害してくる事が度々あり、飼育員の安全を考慮し、底面、爪ともに十分なケアができていない状況にある。前肢の安全かつ効率的なケア方法についても今後検討していく必要がある。